

都市再生の推進に係る有識者ボード 第3回MICE施設機能向上WG  
議事概要

日時：平成25年3月28日（木）13：00～15：00

場所：永田町合同庁舎7階特別会議室

議事概要：

1. 開会
2. MICE施設の現状等に関するプレゼンテーション  
福岡市のMICEについて  
東京ビッグサイトの状況について
3. MICE施設機能向上WGにおける論点の整理について
4. 自由討議
5. 閉会

議事要旨：

<MICE施設の現状等に関する討議について 1 >

- 福岡市は非常にアジアに近く、1,000キロ以内に上海をはじめ、中国、韓国の主要都市が入る。福岡市からの1,000キロから3,000キロ内のアジアのマーケットは非常に大きく、また、主要都市との間には直行便が毎日運航されている。
- 空港から博多まで5分、天神まで10分程度と都心地域までのアクセスが非常に良く、国際会議開催にあたっては、コンパクトでストレスなく会議を開催できることに高い評価がある。
- 福岡市でのコンベンションの実績では、国際会議開催件数は221件で東京に次ぐ2位。ウォーターフロント地区の3施設での経済波及効果は年間1,200億円と試算している。
- アジア関連の会議が多い（全体の4分の1）のが特徴である。
- おもてなしのまち“福岡”としての取組をすすめている。国際交流の一環として学生が積極的に国際会議に参加する仕組みや、アフターコンベンションとして、多言語対応のレストランの案内や、福岡の食をアピールする取組も行っている。
- 伝統的な博多の文化が残る商店街でアフターコンベンションとしてのイベントを開催したことが非常に高い評判であった。商店街や大学生、留学生など多様な主体が一体となって取り組んだ。その他、福岡城跡での日本伝統文化の紹介や、夜のパーティなど地域ならではのユニークな取り組みを行った。

- 施設に空きがなく断った国際会議は、国内他都市で開催されるものが多く、アジア他都市に取られているわけではないと思われる。
- MICE施設の稼働率が高く、断っている状況であることから、第二期展示場の整備を検討している。
- MICE施設までの交通アクセスが非常に重要。駅や空港からMICE施設までのアクセス向上について検討しているところであり、国にも是非ご支援をお願いしたい。
- MICEの受入にあたっては、熊本県や長崎県など、他の地域とも協力して誘致に取り組んでいきたい。

#### <MICE施設の現状等に関する討議について 2>

- 展示会は月、火曜日に準備をして、水、木、金曜日に開催するのが一般的である。土、日曜日に空いてしまうので、東京マラソンなど様々なイベントに使用している。
- 展示会の動向についていうと、横ばいもしくは増加傾向にある展示会については国内向けの産業である。具体的には、食品、生活雑貨などである。一方、縮小傾向にあるのは輸出関連産業の展示会である。
- 国際会議については、ビッグサイトで行われるもののほとんどが展示会と連動している。
- 今後展示会は質を高めることが重要であると考え。その一つの方法が国際会議やセミナーとの同時開催であり、良質な来場者、バイヤーを誘致することが重要である。
- 地域と連携した展示会にも力を入れている。モーターショーと同時に花火大会やオールドファッションカーの展示会を開催するなど、地域全体で展示会を行っている。
- 展示会業界の底上げが必要である。展示会がメジャーになり、人材を輩出し、一流の経済人や国際人が出るような仕組みを作っていきたい。
- 展示会には学問的バックボーンがないのが問題。展示会のデータ等を産官学で連携して整理し、学問的バックボーンを確立する必要があると考える。
- 国際会議や国際展示会における海外VIPの招致の支援を国にしてほしい。
- 来場者は展示会に異空間を求めてくるものであり、美しさとか華やかさをもっと日本人は考えなくてはいけないのではないか。
- 東京ビッグサイトの会議場の不足については、主催者が展示ホールの空きを使って会議場として使用する例もある。

<自由討議>

- 展示会、国際会議は売り手、顧客、あるいは研究者同士の出会いの場のプラットフォームを提供する業務であって、いかにそれを効率的に行い、参加者の満足度をあげるかがMICE施設の事業者のサービスとなることから、施設の観点はMICE全体の中ではひとつの論点にすぎないのではないのだろうか。
- MICE施設の事業を考える際には、稼働率や施設の多さではなく、参加者の満足度を評価する視点が重要ではないのか。
- 日本ではMICE施設と社会制度・規制との連携ができていないと考えられ、ソフト面の対策を打つだけでも日本が持っている潜在力を発揮することができるのではないか。
- MICE施設は立派な施設を整備したからいいMICEになるというわけではなく、施設を活用する地域の産業が地域ブランドとして存在することや展示会を企画・主催・運営できるオーガナイザー等の機能が必要である。
- 大規模展示場施設に関しては、国内における増床ニーズについては東京においても盤石ではない。
- 都心型MICE施設に関しては、民設民営を前提に都市再生プロジェクトの中で、税法上や建築基準法上等さまざまな意味合いでの支援のあり方が検討されてもいいのではないか。
- 国際競争力の推進役である経済特区の一機能としてMICE施設が必要であるとの観点に立てば、MICEが特区の経済活動においてどのように必要であるのかを整理することによって、MICE施設について規制緩和等の支援をすることができ、産業経済界全体からも理解と支援を受ける可能性が出てくると考えられる。
- 例えばMICE推進特別措置法のような法律を作成し、MICEがこれからの国際競争力、日本の産業の中で重要であるという認識を共有しないと、個別にそれぞれの関係者が問題を認識するだけになってしまうと感じる。
- 最低限必要なMICE施設の整備の議論はあってもいいのではないか。ただ、民間に対して規制緩和によって支援するなど、公共セクターが資金を拠出しなくてもできることはあるのではないか。
- 韓国では国際会議と展示会の促進法という法律が作られており、国を挙げて支援している。日本も法律面や制度面等でも見習える部分は見習ったほうがいいのではないか。